事務事業及び予算の執行実績

（令和７年度分「一部、令和８年度分を含む」）

静岡県立静岡聴覚特別支援学校

目次

事務事業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
事務執行の根拠法令調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・20
学校施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
在籍生徒調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・23
卒業生の動向調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
生徒の状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24
預金調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
郵券等受払調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・27
委託料等歳出予算執行状況節別集計表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
委託料に関する調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
負担金支出調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・32
公有財産調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
借地借家等調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・34
事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調・・・・・・・・・・・・35
行政財産貸付・使用許可調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
主要備品調・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37

事務事業の概要

1　概況

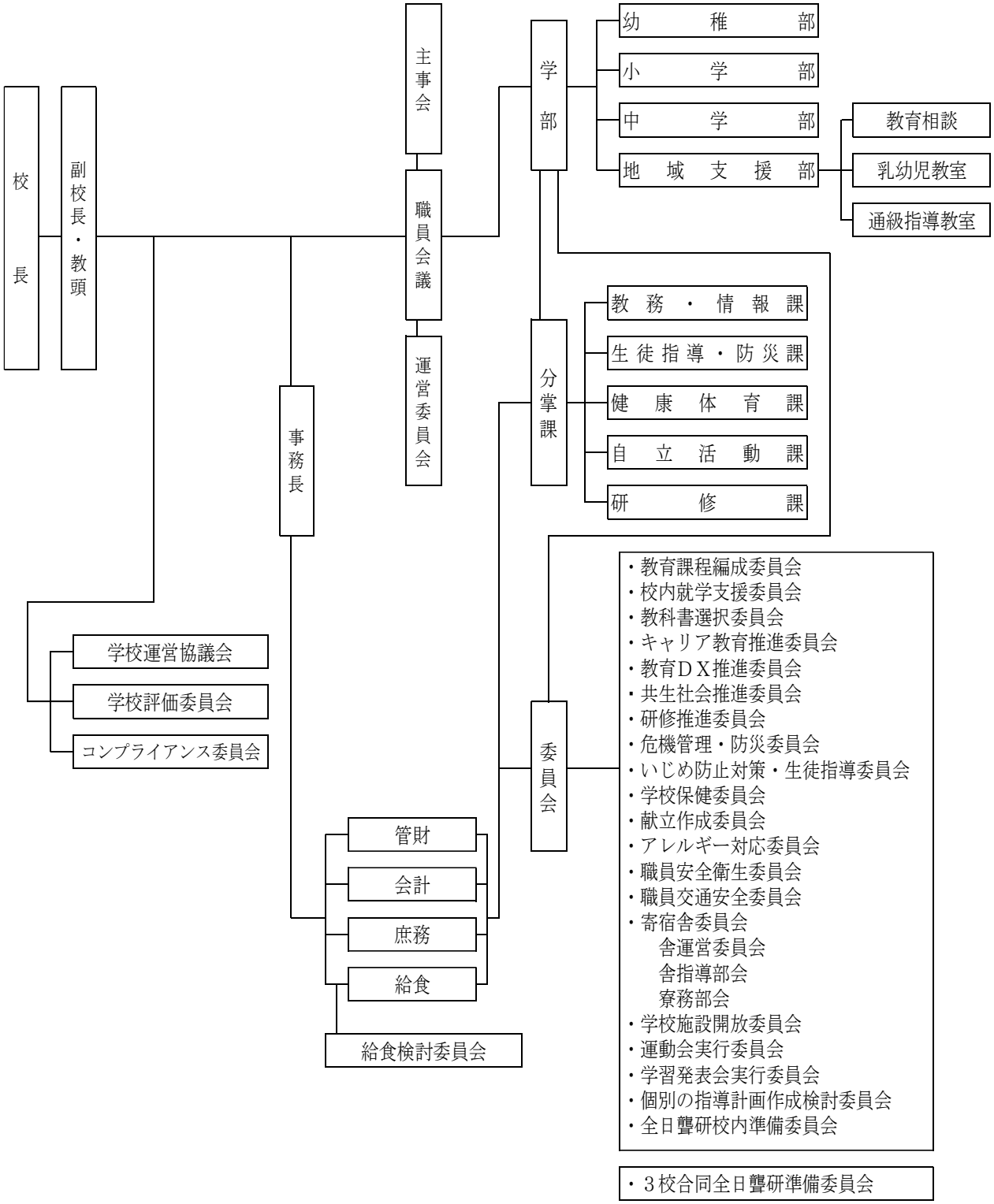
（１）学校の沿革

大正	６．６．25	安倍郡安東村に私立静岡盲唖学校創立
	13．４．１	私立静岡盲唖学校を廃止し、私立静岡聾唖学校設立
昭和	８．４．１	静岡県立静岡盲唖学校（県立移管）
	９．４．１	静岡県立静岡聾唖学校を独立設置開校
	12．５．５	ヘレンケラー女史来校
	12．11．６	現在地（中村町251番地）に校舎新築移転
	23．４．１	就学義務制実施、静岡県立静岡聾学校に校名変更
	35．３．31	寄宿舎（２階建）工事完成
	36．４．１	幼稚部５歳児学級設置
	38．４．１	幼稚部４歳児学級設置
	42．11．25	創立50周年記念式典挙行
	44．４．１	重複障害学級設置
	44．４．10	相談室設置
	45．４．１	幼稚部３歳児学級設置
	46．４．１	聾学校高等部統合に伴い高等部生徒募集停止
	46．５．１	交流教育開始
	48．３．31	学則改正により高等部廃止
	48．４．１	幼稚部２歳児学級設置
	51．４．１	特殊教育教育課程研究指定校文部省指定
	52．11．５	創立60周年記念式典挙行
	53．２．28	校舎改築（第一期）工事完成
	53．11．15	校舎改築（第二期）工事完成
	54．９．11	体育館新築工事完成
	54．12．３	寄宿舎改修工事完成
	56．２．24	プール新設工事完成
	57．12．20	敷地1、493㎡買収
	62．３．31	運動場整備工事・体育館改修工事完成
	62．６．25	創立70周年記念式典挙行
	63．12．14	公共下水道接続等工事完成
平成	元．10．６	焼却炉改築工事完成
	元．10．21	寄宿舎スプリンクラー設置工事完成
	３．４．１	心身障害児適正就学推進研究校文部省指定
	４．３．６	体育館集団補聴器設置
	７．９．20	校舎外壁改修工事完成
	８．４．１	静岡県特殊教育（教育課程）研究指定校指定（～H9年度）
	８．４．19	特殊教育教育課程研究指定校文部省指定（～H9年度）
	９．９．30	学習棟耐震工事完了
	10．１．23	創立80周年記念式典挙行
	10．９．30	管理棟耐震工事完了

平成	14. ３. 11	静岡盲学校敷地内に静岡盲学校と静岡聾学校の寄宿舎を合築
	15. １. 31	静岡聾学校内寄宿舎解体工事完了
	17. ４. １	静岡聾学校通級指導教室及び川根通級指導教室の設置
	20. ４. １	静岡県立学校設置条例の改正により静岡県立静岡聴覚特別支援学校に校名変更
	22. ８. 31	静岡聴覚特別支援学校太陽光発電設備工事完了
	23. ３. 15	校舎北側駐車場整備工事完了
	24. ３. 30	屋外トイレ建築工事完了
	24. ３. 30	ＦＭ補聴器整備完了
	25. ３. 15	災害用仮設トイレ設置工事完了
	25. ４. １	牧之原通級指導教室の設置
	25. ４. １	文部科学省特別支援学校（聴覚障害：特別支援教育に関する教育課程）研究指定（～H26年度）
	27. １. 27	蓄電池付太陽光発電設備設置工事完了
	28. ４. １	静岡県特別支援学校（言語活動を充実させ、論理的な思考力を高めるための授業づくり）研究指定（～H29年度:共同研究） 静岡県特別支援学校（特別支援学校における地域のセンター的役割に関する研究）研究指定（～H29年度:単独研究）
	29. ６. 17	2017年度～2019年度ＮＩＥ実践指定校
	29. 11. 10	創立100周年記念式典挙行
	31. ３. 25	普通教室空調設備設置工事完了
	31. ４. １	特別支援学校における学校図書館活性化研究事業指定
令和	２. ４. １	令和２、３年度特別支援学校におけるICTに関する研究指定
	３. １. 15	特別教室空調設備設置工事完了
	３. ３. 26	トイレ洋式化工事完了

（２）組織図

校務分掌表


校長
副校長・教頭
主事会
職員会議
運営委員会
学部
幼稚部
小学部
中学部
地域支援部
教育相談
乳幼児教室
通級指導教室
分掌課
教務・情報課
生徒指導・防災課
健康体育課
自立活動課
研修課
事務長
学校運営協議会
学校評価委員会
コンプライアンス委員会
管財
会計
庶務
給食
給食検討委員会
委員会
・教育課程編成委員会
・校内就学支援委員会
・教科書選択委員会
・キャリア教育推進委員会
・教育ＤＸ推進委員会
・共生社会推進委員会
・研修推進委員会
・危機管理・防災委員会
・いじめ防止対策・生徒指導委員会
・学校保健委員会
・献立作成委員会
・アレルギー対応委員会
・職員安全衛生委員会
・職員交通安全委員会
・寄宿舎委員会
舎運営委員会
舎指導部会
寮務部会
・学校施設開放委員会
・運動会実行委員会
・学習発表会実行委員会
・個別の指導計画作成検討委員会
・全日聾研校内準備委員会
・３校合同全日聾研準備委員会

2　目指す学校像

「学びをつなげる学校」

(1) 教育目標

自己の障害への理解を促し、一人一人の可能性を最大限に伸ばし、心身の調和的発達を図るとともに豊かな言語力を育て、社会の一員として主体的に生きる人を育てる
目指す子どもの姿「人とのかかわりを楽しみながら、自分らしくたくましく進んでいく子」

＜教育の柱＞

○豊かな言語力　○確かな学力　○健やかな体　○思いやりの心

(2) 目標具現化の柱

【安全・安心】健康で安全な生活と、安心をつなぐ学校
ア　生命の尊重と高い人権感覚による多様性と人格を認め合う集団づくり
イ　学校安全や心身の健康づくりの意識向上による自己管理能力の向上
【つなぐ学び】共生社会を生きる力につながる学びを進める学校
ウ　ＩＣＴの有効活用による主体的学びの実現
エ　自分や他者との対話的学びと協働による深化した学びの実現
オ　キャリア教育の視点で共生社会を生きる力につながる学びの実現
【信頼・連携】信頼関係を築きながらつながる学校
カ　教育相談及び早期支援と乳幼児教室の充実
キ　通級指導教室の指導の充実と啓発
ク　関係機関との情報共有及び相互支援の進展

3　監査対象期間の年度別学校経営の取組等

(1)　令和７年度　の取組目標への評価及び成果と課題

本年度の取組（重点目標はゴシック体で記載）

※「達成状況」について　ＡＢ評価の割合：下段☆：幼児児童生徒・保護者からの評価、上段★：教職員からの評価

※「評価」について　Ａ：成果目標の達成、Ｂ：成果目標の未達、Ｃ：成果目標の未達（「達成状況」のＣＤ３割以上を該当とする。）

【安全・安心】健康で安全な生活と、安心をつなぐ学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
ア	生命の尊重と高い人権感覚による多様性と人格を認め合う集団づくり				
	一人一人の良さや人格を認め、多様性を尊重する思いやりの心の醸成	・互いの良さに気付き、自分も友達も大事にしながら学校生活を送ることができる子 【幼児児童生徒・保護者・教職員AB90％】	ＡＢ ★100％ ☆100％	Ａ	◎ 帰りの会での「友達のいいところ探し」や道徳の学びの共有等の取組により、子どもたちの互いの良さに気付き、認め合う場面が増えた。 ●自己肯定感が低い子へのアプローチの工夫、気持ちの伝え合いを行動につなぐ工夫、縦の交流の工夫が更に必要。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
	学校安全や心身の健康づくりの意識向上による自己管理能力の向上				
イ	**自分の命を守る防犯及び防災等安全教育の充実**	・訓練や学習をもとに、自分の命を自分で守るための考えをもち、行動する子【幼児児童生徒・保護者・教員　AB90％】	ＡＢ ★96.5％ ☆90％	A	◎ 火災、地震、防犯に加え水害などの多様な訓練を繰り返したことで、状況に応じた避難行動や命を守る意識が向上した。 ●防災・防犯訓練のマンネリ化、実効性のある様々な場面を想定した訓練や危機管理マニュアルの見直しが必要。
イ	健全な心と体の成長促進及び自己管理能力の向上	・友達と一緒に身体を動かしたり、関わりをもったりする子【児童生徒・保護者・教員AB90％以上】 ・自分のことを深く知ることができる子【児童生徒・保護者・教員AB90％以上】	ＡＢ ★96.6％ ☆91％ ＡＢ ★100％ ☆82％	B	◎幼稚部の遊び、小学部のおはようタイムの取組や、全学部合同の「ボッチャ大会」などのスポーツ行事を通じ、学部を超えた交流と運動を楽しむ姿勢につながった。 また、各種検査や自立活動でのトリセツづくり、スクールカウンセラー（SC）との連携やストレングスカードの取組などが、客観的な自己理解を深める一助となった。 ●休み時間を確保し自主的に運動を楽しむ姿勢につなげることが必要。自分と向き合う場面を増やすこと、取組を単発にしない工夫、保護者の協力を得た取組にしたい。

【つなぐ学び】共生社会を生きる力につながる学びを進める学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
	ＩＣＴの有効活用による主体的学びの実現				
ウ	**ＩＣＴ活用による個別最適な学びの実現**	・ＩＣＴを活用した学びが、「分かる」「楽しい」と感じている子 【幼児児童生徒・保護者・教員　AB90％以上】	ＡＢ ★96.6％ ☆95％	Ａ	◎活用場面を増やし、ＩＣＴの活用の良さを生かした実践により、写真検索やアプリでの復習などの学習への興味・関心が高まった。中学生はタブレットを文房具のように使いこなすことができるようになった。 ●ＩＣＴ活用に教員間で差があり教員研修の設定、通信環境、機器等の整備の必要があること、児童生徒のＩＣＴ学習の理解の評価や定着のための工夫などが必要。
	自分や他者との対話的学びと協働による深化した学びの実現				
エ	子どもが楽しく対話し協働することで、資質・能力を身に付ける学びの実現	・「自分で問いを見つける学びが楽しい」と答える子 【幼児児童生徒・保護者・教員　AB90％以上】	ＡＢ ★96.3％ ☆59％	Ｂ	◎各学部での講師招聘研修で得た学びを生かし、研修テーマに沿った「わかる」「できる」を目指しながら子どもたちが生き生き学び合うための授業実践を行うことで、学習発表会単元や総合的な学習の時間の調べ学習などの子どもたちが自ら問いを見つけて調べる姿につながっていた。 ●授業を見合い教師が学び、授業改善につながるための互いに見合う時間の確保が必要。

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
エ	自立活動の指導を通した充実した聴覚障害教育の実現	・「人との会話が楽しい」と答える子 【幼児児童生徒・保護者・教員　AB90％以上】	ＡＢ ★100％ ☆85％	B	◎絵日記の取組、傾聴を大切にする子どもとの関わり、交流等関わる場の設定などにより、意思を伝えたいという意欲が向上し、子ども同士の関わりや、ランチルーム等では学部を超えた人との自発的な会話を楽しむ様子が増えた。 ●聞き返しも含め、互いに分かり合える話し方、「自立活動の指導のめやす」を活かしたやりとりなど、更なる指導力の向上が必要。
オ	キャリア教育の視点で共生社会を生きる力につながる学びの実現				
	共生社会を生きる力につながるキャリア教育の充実	・「『交流及び共同学習』の積み重ねから得られる学びが楽しい」と答える子 【幼児児童生徒・保護者・教員　AB80％以上】	ＡＢ ★100％ ☆100％	A	◎交流籍校や学校間交流の場が増え、それぞれの発達段階に応じ子ども自身が目標をもち、他校の友達との関りを楽しんだりする様子も見られた。 ●子どもが立てる目標設定への助言、振り返りの時間の確保、学校間の連携体制や教員間の打合せ等の調整、子どものニーズに応じた交流活動の工夫等の再考など行いたい。
オ	ウェルビーイングの向上による教育活動活性化のための学校体制づくり	・「主体的に教育活動と事務業務の連携を図った」と答える教職員 【AB80％以上】	ＡＢ ★100％	A	◎事務室との連携により会計業務等の負担が軽減され、教員が児童生徒への対応に充てる時間が増加した。 ●事務室の校務参画の具体的内容について、校内での共通理解が必要。

【信頼・連携】信頼関係を築きながらつながる学校

	取組目標	成果目標	達成状況	評価	◎成果と●課題
カ	教育相談及び早期支援と乳幼児教室の充実				
	校内外の専門性を生かした教育相談及び乳幼児教室の充実	・必要な情報等が得られ、安心して相談を受けられた教育相談利用者 【AB80％】	ＡＢ ★100％ ☆100％	A	◎外部施設への巡回やコーディネーターとの連携により、保護者の不安や悩みに手厚く寄り添う支援ができた。 ●教育相談のニーズの把握とそれに応じた対応の仕方についての共通認識、体制づくり、情報発信等が必要。
キ	通級指導教室の指導の充実と啓発				
	在籍校と連携した通級指導教室の充実	・自己理解が深まり、在籍校の学校生活が充実していると答える通級児童生徒及び保護者と在籍校担任 【AB80％】	ＡＢ ★100％ ☆100％	A	◎丁寧な指導により、通級生が自分の聞こえの特徴を学び、在籍校での生活を充実させていると評価されている。 ●増加する通級による指導のニーズへの学校体制づくりが必要。
ク	関係機関との情報共有及び相互支援の進展				
	特別支援学校のセンター的機能の推進と充実及び関係機関との連携の強化	・「校内や関係機関、３聾との連携を図りながら、センター的機能を発揮できていると答える教職員 【AB90％】	ＡＢ ★100％	A	◎デフリンピックを契機とした地域・他校との連携や、三聾（県内の聴覚特別支援学校３校）合同研修、地域支援を中心に医療、その他の機関との連携や情報共有が進展した。 ●特別支援教育コーディネーターや連携コーディネーターが、校内支援などの連携体制で持続的な校内支援の組織体制づくりが必要。

(2) 令和８年度の取組目標・達成方法・成果目標

【安全・安心】

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
ア	多様性を認め合い、自己肯定感を高める集団づくり	○道徳教育、「人権教育年間計画」に基づいた実践と内容の充実 ○児童生徒のセルフマネジメントの促進	○自分と仲間を大切にし、自分の良さを発揮しながら生活できる子
イ	**予測困難な事態に対応できる危機管理意識の向上**	○聴覚障害者に対応した危機管理マニュアルの見直しと実際に即した防災訓練の実施	○安全な行動が分かり、自分の命を守ることができる子
ウ	**健全な心と体の成長の促進**	○運動に親しむ取組の工夫	○友達と関わりながら、進んで身体を動かす子

【つなぐ学び】

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
エ	**「個別最適な学び」の深化**	○「考える」ための手掛かりとしてＩＣＴを活用する学びの取組	○ＩＣＴを活用して、学びを広げている子
オ	**対話と協働による深い学びと聴覚障害教育の専門性の向上**	○３校間連携体制等による教員の授業力及び「個別の指導計画」を生かした自立活動の指導力の向上	○「人・もの・こと」との関わりの中で、自らの考えを深め、表現することを楽しむ子
カ	**社会とつながる学びとキャリア教育の取組の拡充**	○「キャリアパスポート」を生かした「交流及び共同学習」の充実	○『交流及び共同学習』での学びを楽しむ子

【信頼・連携・ウェルビーイング】

	取組目標	達成方法（取組手段）	成果目標
キ	**センター的機能の充実と情報発信の拡充**	○保護者、地域、専門家、関係機関等との継続的な連携体制づくり ○乳幼児教室や地域（幼小中高校等）への情報提供と相談機能の強化	○校内や関係機関、３聾との連携を図りながら、センター的機能を発揮できている学校

ク	ウェルビーイングあふれるチーム学校づくり	○事務室と連携した教育活動の促進及び、働きがいのある環境の整備	○教職員が働きがいをもち、業務改善の取組に参加している学校 ・教職員の時間外在校時間月 45 時間以下 ・退勤から翌日の出勤まで 11 時間以上の確保

4　監査対象期間における特色ある取組

年　度	取　組　概　要	成果及び課題
令和 7 年度	ＩＣＴ活用による個別最適な学びの実現	・ICT支援員を活用し，小学部低学年児童にタブレット端末の使い方，小学部高学年児童、中学部生徒にネット安全安心講座などの授業支援と助言、教職員向けのアプリの使い方研修会を行った。 ・教員アンケートを実施し、ＩＣＴ活用のニーズの把握と活用方法や解決策の提案を行った。
	共生社会を生きる力につながるキャリア教育の充実	・「キャリア教育の手引き」を活用した授業や幼児児童生徒支援の実践を行った。 ・交流先と目標等を共有し、協同的な活動を実践した。 ・「キャリアの視点から見た子ども達のあらわれ」の全教職員で共有し，子ども達への支援を行った。
	特別支援学校のセンター的機能の推進と充実及び関係機関との連携の強化	・通級指導説明会、難聴児支援講習会、中部地区保健センター巡回訪問，高等学校との連携などを通して、聴覚障害者支援に関する情報を積極的に提供した。 ・連携コーディネーターを活用し、県立総合病院のＳＴとの連携の強化や乳幼児教室，教育相談のＯＪＴによる支援の向上を図った。 ・県内の聾学校と合同研修を行い，専門性の向上を図った。
令和 8 年度	健全な心と体の成長の促進	・月１回「スポーツディ」を設定し、小学部と中学部の児童生徒が学部を超えて運動に取り組んだ。友達との関わりをとおして楽しく体を動かすことができた。今後幼稚部も含む全校で取り組んでいく。 ・継続的に体を動かす機会を設けた。運動後に疲れたが気持ちが良くなったと実感し、運動することへの抵抗感が徐々に減ってきている。
	対話と協働による深い学びと聴覚障害教育の専門性の向上	・県内の３聾学校との合同夏季研修を実施し、聴覚教育に関する専門性を高めることができた。 ・個別の指導計画を生かした自立活動の充実のため職員研修を実施する。 ・各学部で講師招聘研修を実施し、障害特性に応じた指導力を向上する。

年　度	取　組　概　要	成果及び課題
	社会とつながる学びとキャリア教育の取組の拡充	・キャリアパスポートを活用し、目標と振り返りを実施。児童生徒自身が自己成長を実感できるよう工夫をしていく。 ・学校間交流や交流籍を活用した交流及び共同学習を推進。校外の人との関わりの中で伝える意欲、手段等を学ぶきっかけにする。 ・地域の人的物的資源を有効に活用する「学校サポーター」事業が２年目。顔の見える関係の中で世代を超えた温かい交流をしていく。
	センター的機能の充実と情報発信の拡充	・在籍校訪問、通級指導説明会、難聴児支援講習会、高等学校との連携などを通して、聴覚障害者支援に関する情報を発信する。 ・中部地区保健センター訪問により難聴児の早期発見、早期療育につながるようにした。 ・連携コーディネーターの配置により乳幼児教室を充実させる。

5　教職員について

(1) 異動状況

区分	校長	副校長	事務長	教諭	養護教諭	主査	主任	栄養士	主任技能員	小計	教諭(任)	教諭（臨）	主事（臨）	栄養士（臨）	会計年度任用職員	学校医等	小計	計
転出		1		5			1			7								7
退職											1				1		2	2
転入		1		3			1			5								5
新任												1	1		1		3	3
差引増減		0		－2			0			－2	－1	1	1		0		1	－1

(2) 現員数

(ｱ)現員の配置状況

（令和８年７月31日現在）

区分	校長	副校長	事務長	教諭	養護教諭	主査	主任	栄養士	主任技能員	小計	教諭(任)	教諭（臨）	主事（臨）	栄養士（臨）	会計年度任用職員	学校医等	小計	計
男				5						5					3	5	8	13
女	1	1	1	18	1	1	1	1		25	2	2	1		1		6	31
計	1	1	1	23	1	1	1	1		30	2	2	1		4	5	14	44

(ｲ) 職員の年齢調

（令和８年４月１日現在）

年　　齢	人　　員	摘　　要
２０歳未満	0人	
２０歳以上３０歳未満	２人	
３０歳以上４０歳未満	10人	
４０歳以上５０歳未満	７人	
５０歳以上５６歳未満	７人	
５６歳以上６１歳未満	３人	
６１歳以上	1人	再任用
計	30人	平均年齢　45.9歳

(3) 健康管理について

ア　令和７年度

(ｱ) 健康診断の確実な受診と適切な事後処置の実施100％を推進した。

(ｲ) 個人で週に１回以上、定時退勤日を設定し、健康の維持管理に配慮した。

(ｳ) 職場の健康づくり支援事業を実施し、ストレングスカードを使った自分の良いところについて知る機会を作った。

(ｴ) 職員安全衛生委員会を毎月１回行い、職員の心身の健康状態、安全な職場環境について共通理解、改善を図った。

(ｵ) 毎月末に全職員で校舎内外の安全点検を行い、校内環境整備と維持管理を万全にした。

イ　令和８年度

(ｱ) 健康診断の確実な受診と適切な事後処置の実施100％を推進している。

(ｲ) 個人で週に１回以上、定時退勤日を設定し、健康の維持管理に配慮している。

(ｳ) 職員安全衛生委員会を毎月１回行い、職員の心身の健康状態、安全な職場環境について共通理解、改善を図っている。

(ｴ) 毎月中旬に全職員で校舎内外の安全点検を行い、校内環境整備と維持管理を万全にしている。

ウ　令和７年度受診状況

区　　分	内　　容
受診状況	受診者数　３２　人 職員数　３２　人
受　診　率	１００　％
県平均受診率	１００　％

(1) 未受診の理由

エ　令和８年度在籍者の健康管理区分結果

健康管理区分			人　数
A	休養のため必要な期間、勤務を休止させる。		人
B１	勤務時間を短縮し、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張をさける。また、必要に応じ勤務場所、勤務内容の変更を行う。	要治療	人
B２		要経過観察	人
C１	勤務をほぼ平常に行ってよいが症状によっては、時間外、休日、宿日直勤務及び長期又は遠方への出張等勤務に制限を加える必要がある。	要治療	人
C２		要経過観察	人
D１	平常の勤務でよい。	要治療	11(11)人
D２		要経過観察	11(11)人
D３		医療不要	８(８)人
区分者計			30(30)人
未区分者数			０人
合　　計			30(30)人

(1) 管理区分Ａ～Ｃ２該当者に対する措置状況

該当なし

(2) 未区分の理由

ア　産休・育休　　人
イ　新規採用　　人
ウ　自己都合による未受診　　人
エ　その他
（　　）　人

(4) 教職員の研修について

ア　令和７年度

取組事項	研修内容	成果と課題
自分の思いを伝えあう子を目指して （幼稚部の取組実践）	学部教師間の共通理解（言葉の発達段階表、幼稚部の授業づくり） 実態把握（語彙表チェック、行動観察、絵日記、情報収集） 授業研究（朝の会を窓口とした一人一授業研、全体研修年１回、松本末男氏による講師招聘研修）	〈成果〉 ・「朝の会」を窓口に、見通しの持てる環境やあえて不足を作る等の仕掛け（はてなボックス等）を整えたことで、児童の「知りたい」「伝えたい」意欲が高まり、自発的な表現・発信の芽生えが見られた。 ・子どもの行動や気付きを即時に言語化・口声模倣する支援や、キューサイン活用等により、個に応じた表出の幅が広がった。 ・参観時に動画を活用した振り返りやOJT研修を行い、学部全体で指導視点を共通理解できた。 〈課題〉 ・子ども同士のやり取りへ広げる支援や、非言語サイン（視線・身振り等）の見取りと全体共有の強化。 ・視覚情報の効果的な活用や、自由度の高い活動（トピックス）における指導者の役割（主導権の保持、着地の見極め、柔軟な対応力）のさらなる向上。
「主体的に問題解決に取り組み、伝え合い学び合う授業づくり」～問いと学習課題をつなげる授業づくり～ （小学部の取組実践）	実態把握（Reading-Test、J.COSS、キューサイン読み取り、聞く・伝える姿勢チェック等） 授業研究（一人一授業研、全体研修年１回、山本晃氏による講師招聘研修） テーマ研修（板書計画、単元1か月前からの「言葉の種まき」等）	〈成果〉 ・前時の振り返りを工夫（開いた発問・閉じた発問の使い分け）したことで、「分からなかった」が「ちょっと分かった」へ変化し、自ら「問い」を持って問題解決に取り組む姿が見られた。 ・単元1か月前からの「言葉の種まき」や実体験（飼育活動等）との結合により、教科用語の獲得と主体的な学びが促された。 ・ICT（タブレット録画）を活用した音読の振り返り等により、「聞く・伝える」態度や自己評価能力が向上した。 〈課題〉 ・答えを先に伝えず、一問一答に陥らない「揺さぶり」や待ちの姿勢を意識した発問の工夫。 ・振り返り方法の全校的な共通理解と、生じた「問い」を次の学習課題設定へ円滑につなぐ授

取組事項	研修内容	成果と課題
		業展開の確立。
具体と抽象を行き来しながら、思考をつなげ広げるための授業づくり（中学部の取組実践）	実態把握（Reading-Test、各種聴力・手話検査、事例生徒OHさんの分析等） 授業研究（一人一授業研、全体研修年１回、長南浩人氏による講師招聘研修）	〈成果〉 ・実体験（体育の身体操作や理科の実験等）を起点に「返しの発問」を行うことで、具体から抽象（法則・定義等）へのアプローチを強化できた。 ・「接続詞の型（なぜなら、だから等）」を思考のレールとして導入したことで、論理構造を持った文章記述・発表力が大きく向上した（事例生徒の成功事例を学部全体に波及）。 ・ICT（動画撮影・スプレッドシート等）を活用し、自分の動作や実験データを客観的に振り返り可視化する環境を構築できた。 〈課題〉 ・事実や具体例（単なる具体への固執）から脱却し、全体を貫く抽象的構造や法則として理解させる指導の充実。 ・型を「思考の道具」として深く機能させ、自己完結的思考から「他者視点・葛藤」を取り入れた多角的な思考力・社会的認知力を育むこと。
「通級生が自分らしく生活するための指導・支援の充実～連携を活かした通級指導～」（通級生の取組実践）	実態把握（諸検査の見直し、スピーチトラッキング等） 年間指導計画を活用した実践・検証サイクル（全21回の連続性と在籍校行事等との連動） 小川征利氏による講師招聘研修、個別のテーマ研修（連絡ノート、Googleチャット活用等）	〈成果〉 ・「年間指導計画」を活用した研修に転換したことで、単元間の系統性や在籍校行事と連動した事前・事後指導が充実し、実生活に活きる学びを提供できた。 ・Googleチャットの導入等により在籍校との即時的な情報交換が可能となり、環境調整や難聴理解授業の実施、補聴器装用の定着・自己開示につながった。 ・「わたしのトリセツ」づくりや小中交流等を通じ、ポジティブな自己受容とアサーションの意識が高まった。 〈課題〉 ・1時間の授業づくり（発問・教材・場の設定等）に関する指導力のさらなる向上。 ・共有ツール（チェックリストや連絡ツール）のルール化と、担当者が変わっても継続可能な再現性の高い連携体制の構築。

取組事項	研修内容	成果と課題
思いを伝えあう親子を目指して～保護者が主体的に関わろうとする支援～ （乳幼児教室の取組実践）	発達診断・検査の活用（津守・稲毛式精神発達診断法等） 振り返りシートおよび「話しかけ10か条」を活用した保護者支援 松本末男氏による講師招聘研修、グループ指導実践	〈成果〉 ・振り返りシートに「関わりのポイント」を明示し、指導前に言葉掛けを考えてもらうことで、保護者の主体的な関わりや肯定的な言葉掛けが増加した。 ・グループ指導や在籍園・家庭訪問と講習会の連動により、保護者同士の学び合いや他機関を含めた多角的な支援体制が構築できた。 〈課題〉 ・共働き世帯等の多様な家庭状況に応じた柔軟で分かりやすい説明の工夫（母以外の家族への伝達等）。 ・保護者や園に難聴への理解をさらに深めてもらうための橋渡しと、検査結果等を活用した具体的な支援提案の強化。

イ　令和８年度

(ｱ) 全体

取組事項	研修内容
一人ひとりが「わかる」「できる」を目指し、生き生きと学び合う子 （重点目標：対話と協働による深い学び）	・授業改善の推進 ・小中合同研修グループの編制・活用： 従来の学部別から「小中合同研修ブロック」へと統合。 ・「経験と生活のカリマネ」の推進： 授業内にとどまらず、生活経験や家庭との連携を推進する。 ・思考の手掛かりとしてのICT活用 ・協同的な学びグループ： メンターグループ等のワークや授業参観を実施。研修会ではCanva等のデジタルツールを活用し、多角的な意見交換とフィードバックを行う。 ・三聾学校の交流： 県内三聾学校（沼津・静岡・浜松）での合同夏季研修や交流授業を実施。令和10年度「第62回全日本聾教育研究大会（静岡大会）」主管校としての研究推進・準備体制を確立する。

(ｲ) 幼稚部

取組事項	研修内容
自分の思いを伝え合う子を目指して	・学部教師間の共通理解と多角的な実態把握（言葉の発達段階表、語彙表、行動観察等）。 ・朝の会や季節行事を窓口とした授業研究。事後研では10分程度のやり取り場面のビデオ分析を活用し、発問や言葉掛けの支援効果を検証。 ・松本末男氏による講師招聘研修・示範授業を継続し、生活言語から学習言語への円滑な移行を見据えた指導力を向上させる。

(ｳ) 小・中学部（小中合同研修ブロック）

取組事項	研修内容
対話と協働により思考を深める授業づくり	・小低学年グループ： 行動や経験を言葉につなぎ、「伝えたい」を育むコミュニケーションの基盤づくり（「言葉と経験の種まきシート」の導入）。 ・小高・中学部グループ： 思考を整理し、根拠を明確にしながら自分の考えを表現する力の育成（接続詞を用いた「思考のレール」の活用、他者視点の代弁による葛藤の深化）。 ・実態把握（Reading-Test、聴力測定、発音明瞭度、手話等読取り） ・関聾研（国語科）の計画的実施。

(ｴ) 地域支援部（通級指導教室）

取組事項	研修内容
通級生が自分らしく生活するための指導・支援の充実 ～一人ひとりがなりたい自分を目指し、在籍校での自信につなげる通級指導～	・在籍校との連携を活かした「年間指導計画」の定期的な見直しと即時改善。 ・自立活動6区分に対応した「難聴通級で身に付けたい力のチェックリスト」等の四者（本人・保護者・在籍校・通級）共有ツールの作成・活用検討。 ・外部講師（小川征利氏）によるビデオ研修および担当者間の授業動画共有による指導力向上。

(ｵ) 地域支援部（乳幼児教室）

取組事項	研修内容
思いを伝え合う親子を目指して ～親子遊びを通した親子関係づくり支援～	・振り返りシートの様式改善と焦点化（保護者が事前に意識する関わりポイントの明確化）。 ・津守・稲毛式精神発達診断法や各種検査を活用した実態把握と、家庭・在籍園への具体的な支援提案。 ・「乳幼児学級経営ハンドブック」の作成・活用および他機関（園・医療等）とのネットワーク強化。

6　防災対策について

(1) 令和７年度の防災訓練実施状況

月日	内容
４月30日	避難訓練①（地震）、避難経路の確認
６月９日	防犯訓練①　不審者侵入時の安全確保
６月23日	避難訓練②（地震予告なしⅠ）
７月29日	職員防災研修（マンホールトイレ設置訓練）
８月28日	避難訓練③（引渡し訓練）
９月１日～５日	災害伝言ダイヤル訓練（学校→家庭）
９月22日	防犯訓練②　不審者侵入時の安全確保
10月２日	職員防災研修（防災マニュアルの見直し）
11月14日	避難訓練④（火災）
12月３日	職員防犯訓練（不審者対応実地訓練・警察署員の助言）
12月10日	非常食体験①（学校）
１月21日	避難訓練⑤（地震・予告なしⅡ）
２月９日	防災教育推進のための連絡会議

(2) 令和８年度の防災訓練実施状況

月日	内容
５月15日	避難訓練①（地震）、避難経路の確認
６月８日	防犯訓練①、不審者侵入時の安全確保
７月29日	職員防災研修（I-DEA学校職員向けイメージ研修）
８月31日	避難訓練③（引渡し訓練）
８月31日～９月４日	災害用伝言ダイヤル訓練（家庭→学校）
９月30日	防犯訓練②
11月25日	避難訓練①（火災）
12月10日	非常食体験①（学校）
12月中旬	防災教育推進のための連絡会議（紙面開催）
１月18日～22日	避難訓練⑤（地震・予告なしⅡ）

7　学校開放について

本校では、地域の人々に積極的に学校施設を開放している。

(1) 令和７年度利用状況

事業名	施設名	利用延日数	利用延人数	利用者負担金
県立学校 施設開放	体育館	100　日	1,726　人	電気料実費 10,195 円
	運動場	61　日	1,778　人	

(2) 令和８年度利用状況　（令和７年７月31日現在）

事業名	施設名	利用延日数	利用延人数	利用者負担金
県立学校 施設開放	体育館	43　日	653　人	電気料実費 4,120 円
	運動場	23　日	549　人	

事務執行の根拠法令調

項　　目	根　　拠　　法　　令
学校教育に関すること	教育基本法（第1条、第2条） 学校教育法（第1条、第2条、第3条、第72条、第73条、第74条、第76条、第77条、第78条、第79条、第80条、第82条） 学校教育法施行規則 学校保健安全法（第5条） 静岡県立学校設置条例 静岡県立特別支援学校学則 静岡県就学支援委員会規則
学校の管理・運営に関すること	学校教育法（第137条） 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第33条） 静岡県立学校管理規則 教育公務員特例法（第21条、第22条） いじめ防止対策推進法（第8条、第15条、第16条） 学校保健安全法（第15条、第23条、第27条） 静岡県立学校職員安全衛生管理規程 静岡県立学校の施設等の開放に関する要綱 学校図書館法(第3条、第4条） 静岡県手話言語条例 静岡県教育委員会処務規程 静岡県教育委員会事務決裁規程 特別支援学校への就学奨励に関する法律（第2条、第3条） 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行令 特別支援学校への就学奨励に関する法律施行規則 特別支援教育就学奨励費負担金等及び要保護及準要保護児童生徒援助費補助金交付要綱 要保護及準要保護児童生徒援助費補助金及び特別支援教育就学奨励費補助金交付要綱 学校給食法（第1条、第2条、第3条、第4条） 特別支援学校の幼稚部及び高等部における学校給食に関する法律（第1条、第2条、第3条）

学校施設の概要

1　面積及び所有区分

（令和８年７月31日現在）

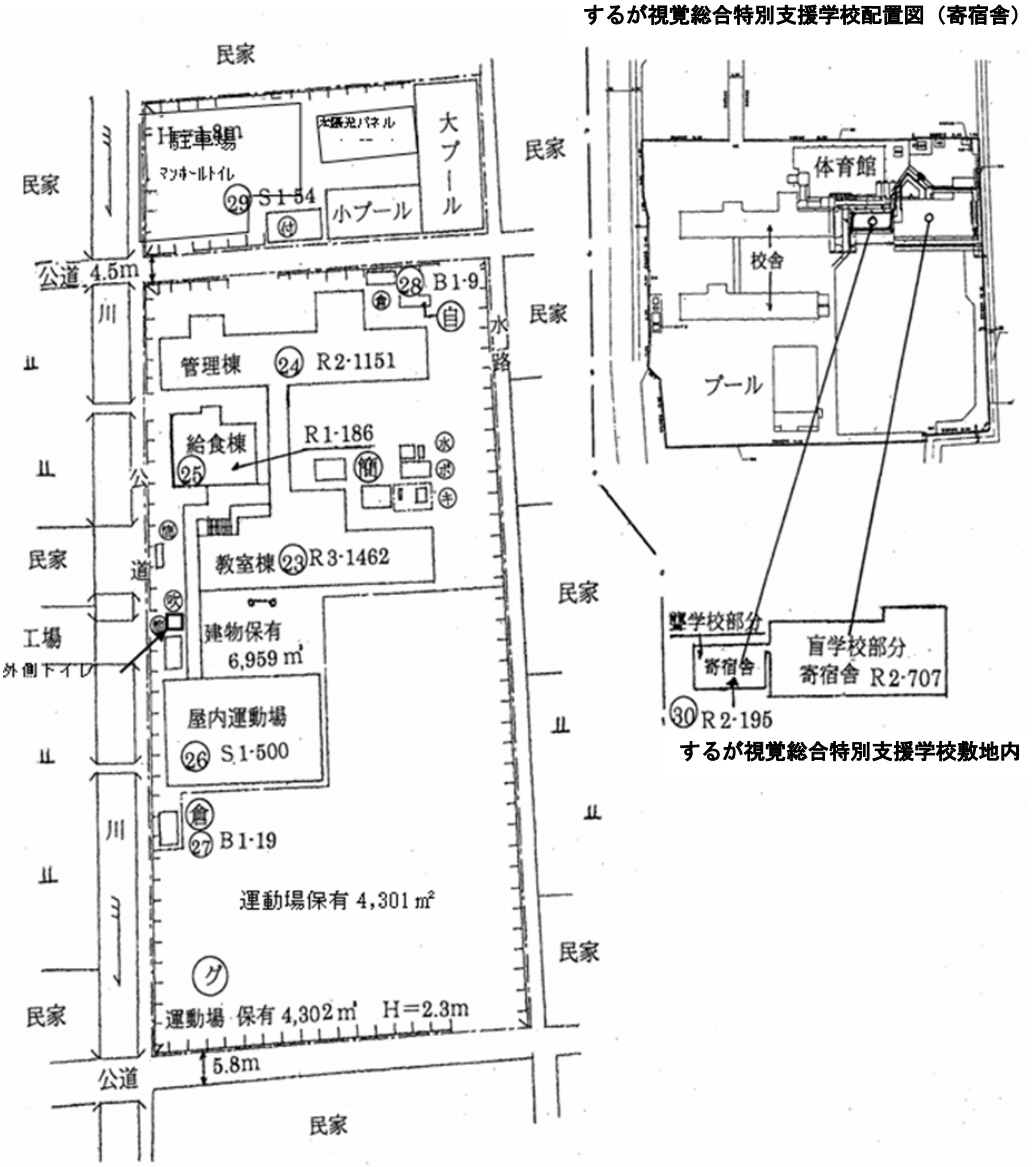
区分		面積 ㎡	所有内訳					摘要
			県有 ㎡	国有 ㎡	市町村有 ㎡	後援会有 ㎡	民有 ㎡	
学校敷地		11,368.38	11,368.38					
内訳	校舎敷地	6,959.69	6,959.69					
	運動場敷地	4,301.06	4,301.06					
	その他の敷地	107.63	107.63					静岡視覚特別支援学校敷地寄宿舎
校舎		建 1,444.52 延 2,798.91	1,444.52 2,798.91					
体育館		建 534.25 延 500.25	534.25 500.25					
その他の建物		建 205.72 延 205.72	205.72 205.72					プール附属棟 倉庫他
寄宿舎		建 107.63 延 194.60	107.63 194.60					
プール		(大)20×８m (小)6×4.5m	20×８m 6×4.5m					

（注）１　本表は、学校において調製する。
２　「実習地」は現況により記載し、現況が台帳地目と異なる場合は、「摘要」欄に台帳地目名を記載する。
３　「校舎」のうち県有以外のものは「摘要」欄に内容を記載する。
４　職員住宅のうち公立学校共済組合有のものは「摘要」欄に記載する。

2　配置・規模等

(1) 校舎等の配置図

するが視覚総合特別支援学校配置図（寄宿舎）



(2) 学校施設の規模等（法面・演習林等を除く）

区　分	学校敷地面積	校舎延面積	運動場面積
当　校	11,368.38㎡	2,798.91㎡	4,301.06㎡
県平均	18,843.25㎡	6,361.36㎡	5,244.43㎡

（注）1　本表は、学校において調製する。
2　当図には、「1　学校施設の概要」に記載してある学校敷地及び施設等の配置を記載する。

在　籍　生　徒　調

（令和８年７月31日現在）

学年	区分＼学部別	幼稚部			小学部			中学部			合計		
		男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	合計
1年(2歳)	入学者	2	2	4	2	1	3	0	1	1	4	4	8
	増加												
	減少												
	現在	2	2	4	2	1	3	0	1	1	4	4	8
2年(3歳)	入学者	2	1	3	2	1	3	1	1	2	5	3	8
	増加												
	減少	2	1	3							2	1	3
	2年時当初	0	0	0	2	1	3	1	1	2	3	2	5
	増加		1	1								1	1
	減少												
	現在	0	1	1	2	1	3	1	1	2	3	3	6
3年(4歳)	入学者	0	2	2	2	2	4	0	0	0	2	4	6
	増加												
	減少												
	2年時当初	0	2	2	2	2	4	0	0	0	2	4	6
	増加												
	減少												
	3年時当初	0	2	2	2	2	4	0	0	0	2	4	6
	増加				1		1				1		1
	減少												
	現在	0	2	2	3	2	5	0	0	0	3	4	7
4年(5歳)	入学者	1	2	3	0	0	0				1	2	3
	増加												
	減少		1	1								1	1
	2年時当初	1	1	2	0	0	0				1	1	2
	増加												
	減少												
	3年時当初	1	1	2	0	0	0				1	1	2
	増加												
	減少												
	4年時当初	1	1	2	0	0	0					1	1
	増加												
	減少												
	現在	1	1	2	0	0	0				1	1	2
5年	入学者				0	0	0				0	0	0
	増加					1	1					1	1
	減少												
	2年時当初				0	1	1				0	1	1
	増加												
	減少												
	3年時当初				0	1	1				0	1	1
	増加												
	減少												
	4年時当初				0	1	1				0	1	1
	増加												
	減少					1	1					1	1
	5年時当初				0	0	0				0	0	0
	増加												
	減少												
	現在				0	0	0				0	0	0
6年	入学者				0	1	1				0	1	1
	増加												
	減少												
	2年時当初				0	1	1				0	1	1
	増加												
	減少												
	3年時当初				0	1	1				0	1	1
	増加												
	減少												
	4年時当初				0	1	1				0	1	1
	増加												
	減少												
	5年時当初				0	1	1				0	1	1
	増加												
	減少												
	6年時当初				0	1	1				0	1	1
	増加												
	減少												
	現在				0	1	1				0	1	1
合計		3	6	9	7	5	12	1	2	3	11	13	24

卒 業 生 の 動 向 調

区　　分		中学部	高　等　部		合　計
			本　科	専攻科	
進学者	普通高校	2			2
	特別支援学校高等部	1			1
	高等部専攻科				
	四年制大学				
	短期大学				
	専修・各種学校	2			2
	公共職業訓練校				
小　　計		5			5
施設等入所者	障害者支援施設等				
	他の施設				
小　　計		0			0
就職者					
在宅療養等					
その他					
計		5			5

生 徒 の 状 況

1　生徒の居住地域及び通学方法

(1) 居住地　　(令和８年７月31日現在)　(単位：人)

市 町 名	静岡市	焼津市	藤枝市	島田市	牧之原市	御前崎市	吉田町	合　計
生 徒 数	15	1	2	2	1	1	2	24
構成比%	62.5	4.2	8.3	8.3	4.2	4.2	8.3	100.0%

(2) 通学方法　　（令和８年７月31日現在）（単位：人）

区　　分	自家用車 (送迎)	バス	バス・自家 用車(送迎)	合　計
生 徒 数	18	2	4	24
構成比%	75.0	8.3	16.7	100.0%

(3) 自転車通学に係るルールや要件　　（令和８年７月31日現在）（単位：人）

自転車通学は認めていない。

ヘルメット所持要件	無	ヘルメット着用要件	無

(4) ヘルメット所持、着用率　　（令和８年７月31日現在）（単位：人）

入学年度					合計
自転車通学者数					
ヘルメット所持者数					

着用率・着用状況	

2

部（クラブ）の加入状況（中学部）　　（令和８年７月31日現在）（単位：人）

区　　分		運 動 部	文 化 部	未加入者	計
部(クラブ)数		1	0	0	1
男子	１　年	0		0	0
	２　年	1		0	1
	３　年	0		0	0
	計　（A）	1		0	1
	構成比	100.0%		0%	100.0%
女子	１　年	1		0	1
	２　年	1		0	1
	３　年	0		0	0
	計　（B）	2		0	2
	構成比	100.0%		0%	100.0%
合計	（A＋B）	3		0	3
	構成比	100.0%		0%	100.0%

3　障害別児童生徒数　　（令和８年７月31日現在）（単位：人）

区　　分		１年（２歳）	２年（３歳）	３年（４歳）	４年（５歳）	５年	６年	合　計	学級数
幼稚部	単一障害	4	1	2	2			9	4
	重複障害								
	―								
合　計		4	1	2	2			9	4
小学部	単一障害	3	3	5			1	12	4
	重複障害								
	肢体重複								
合　計		3	3	5			1	12	4
中学部	単一障害	1	2					3	2
	重複障害								
	肢体重複								
合　計		1	2					3	2

4　起因疾患別児童生徒数　　（令和８年７月31日現在）（単位：人）

区　分	胎生期	周生期	後天性	原因不明	その他	計
幼稚部				9		9
小学部				12		12
中学部				3		3
計				24		24

預　金　調

（令和８年７月31日現在）

金融機関名	預金種類	口座番号	口座名義人	残高(円)	摘　要
静岡銀行 馬淵支店	無利息型 普通預金	0029530	静岡県立静岡聴覚特別支援学校 資金前渡者　佐藤容子	0	給与等
静岡銀行 馬淵支店	無利息型 普通預金	0550194	（自振口）静岡県立静岡聴覚特別支援学校 資金前渡者　佐藤容子	70,850	資金前渡（自振口） 水道代等口座振替口座
静岡銀行 馬淵支店	無利息型 普通預金	0153062	静岡聴覚特別支援学校就学奨励費 代理受領者　佐藤容子	0	就学奨励費代理受領口座
残　高　合　計				70,850	

郵　券　等　受　払　調

（令和８年７月31日現在）

（単位：枚、円）

区分	種類	令和７年度						令和８年度								摘要
		繰越		受入		払出		繰越		受入		払出		差引現在高		
		枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	枚数	金額	
郵券	10円切手	0	0	1	10	1	10	0	0	0	0	0	0	0	0	涉外連絡文書／返信用
	30円切手	0	0	1	30	1	30	0	0	0	0	0	0	0	0	
	110円切手	0	0	6	660	6	660	0	0	8	880	8	880	0	0	
	160円切手	0	0	2	320	2	320	0	0	0	0	0	0	0	0	
	180円切手	0	0	1	180	1	180	0	0	0	0	0	0	0	0	
	300円切手	0	0	1	300	1	300	0	0	0	0	0	0	0	0	
	500円切手	0	0	1	500	1	500	0	0	0	0	0	0	0	0	
	レターパックプラス	0	0	3	1,800	3	1,800	0	0	3	1,800	1	600	2	1,200	
計			0		3,800		3,800		0		2,680		1,480		1,200	

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

節　名	会計	款	項	目	執　行　済　額　（円）		
					６年度	７年度	左のうち、６年度からの繰越額分
(12)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		67,100	
委託料	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費		11,856,202	
計					11,871,480	11,923,302	0
(14)							
工事請負費							
計					0	0	0
(16)							
公有財産購入費							
計					0	0	0
(17)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		1,030,700	
備品購入費							
計					320,650	1,030,700	0
(18)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費		44,700	
負担金、補助及び交付金							
計					42,500	44,700	0
(21)							
補償、補填及び賠償金							
計					0	0	0

委託料等歳出予算執行状況節別集計表

（令和８年７月31日現在）

節　名	会計	款	項	目	執行済額（円）	うち、7年度からの繰越額分
(12)	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	110,000	
委託料	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	0	
	一般会計	教育費	学校教育費	健康体育費	2,935,614	
計					3,045,614	0
(14)	一般会計	教育費	教育委員会費	教育管理費	0	
工事請負費						
計					0	0
(16)						
公有財産購入費						
計					0	0
(17)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	434,500	
備品購入費						
計					434,500	0
(18)	一般会計	教育費	特別支援学校費	特別支援学校管理費	18,000	
負担金、補助及び交付金						
計					18,000	0
(21)						
補償、補填及び賠償金						
計					0	0

委託料に関する調

（令和７年度）

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
	（事務関係）		円	円	円	円				円 (19,559,996)		
1	給食業務	㈱ユアーズ静岡	36,081,226	35,200,000	15,950	35,215,950	一般	5.8.14 ～ 8.7.31	7.5.30 7.6.30 7.7.31 7.8.29 7.9.30 7.10.31 7.11.28 7.12.25 8.1.30 8.2.27 8.3.31 8.4.22 （小計）	978,483 978,483 978,483 978,483 978,483 978,483 978,484 978,484 978,484 978,484 978,484 978,484 11,741,802	給食調理業務準備・調理・清掃・配膳等	５長期
2	産業廃棄物収集・運搬及び処分（グリストラップ）	静和エンバイロメント㈱	57,200	57,200	0	57,200	随契	7.6.20 ～ 7.8.29	7.8.19	57,200	グリストラップ汚泥収集運搬処分	随契１号（少額）
3	産業廃棄物収集・運搬及び処分（混合）	㈱総合美装ワタナベ	67,100	67,100	0	67,100	随契	7.10.28 ～ 8.3.27	8.2.5	67,100	混合廃棄物収集運搬処分	随契１号（少額）
4	産業廃棄物収集・運搬及び処分（グリストラップ）	静和エンバイロメント㈱	57,200	57,200	0	57,200	随契	8.3.9 ～ 8.3.31	8.4.8	57,200	グリストラップ汚泥収集運搬処分	随契１号（少額）
事務関係計		4件								11,923,302		
合計		4件								11,923,302		
参考1	警備業務	エスピトーム㈱		12,999,360	0	12,999,360		6.10.1 ～ 11.9.30			施設警備業務	駿河総合高校
2	自家用電気工作物保安管理業務	静岡ビル保善㈱		2,714,360	0	2,714,360		7.4.1 ～ 8.3.31			自家用電気工作物保安業務	静岡西高校
3	消防用設備等保守点検業務	旭産業㈱		4,125,000	0	4,125,000		7.4.1 ～ 8.3.31			消防用設備点検業務	中央特別支援学校
4	可燃物収集運搬処分業務	㈱静岡清掃企業		運搬18,000円／回 処分15.0円/kg	0	運搬18,000円／回 処分15.0円/kg		7.4.7 ～ 8.3.31			可燃物収集運搬処分業務	静岡農業高校
5	ガスヒートポンプ点検業務	㈱ユアーズ静岡		2,791,800	0	2,791,800		7.5.26 ～ 8.3.31			ガスヒートポンプ点検業務	静岡高校
6	防鼠防虫業務	㈱総合美装ワタナベ		440,000	0	440,000		7.7.7 ～ 8.3.31			厨房等防鼠防虫業務	清水特別支援学校
7	建築基準法第12条に基づく定期点検業務	N.concept建築計画二級建築士事務所		3,520,000	0	3,520,000		7.8.12 ～ 8.1.30			建築物及び建築設備の定期点検業務	静岡商業高校
	計	7件										

委託料に関する調

（令和８年度）
（令和８年７月31日現在）

整理番号	委託業務名	受託者	当初設計金額	契約金額			契約締結方法	契約期間	支出年月日	金額	委託業務の内容	摘要
				当初額	変更増減額	計						
	（事務関係）		円	円	円	円				円		
										(31,301,798)		
1	給食業務	(株)ユアーズ静岡	36,081,226	35,200,000	15,950	35,215,950	一般	5.8.14 ～ 8.7.31	8.5.29 8.6.30 8.7.31	978,538 978,538 978,538	給食調理業務準備・調理・清掃・配膳等	５長期
									（小計）	2,935,614		
2	産業廃棄物収集・運搬及び処分（グリストラップ汚泥）	静和エンバイロメント㈱	62,700	62,700	0	62,700	随契	8.6.10 ～ 8.10.31		0	グリストラップ汚泥収集運搬処分	随契１号（少額）
3	産業廃棄物収集・運搬及び処分（引火性廃油）	静和エンバイロメント㈱	37,400	37,400	0	37,400	随契	8.6.12 ～ 9.3.31		0	引火性廃油収集運搬処分	随契１号（少額）
事務関係計		3件								2,935,614		
1	（工事関係） 有害物質含有調査	㈱静環検査センター	110,000	110,000	0	110,000	随契	8.5.18 ～ 8.6.30	8.7.31	110,000	有害物質含有調査業務	随契１号（少額）
工事関係計		1件								110,000		
合計		4件								3,045,614		
参考1	警備業務	エスピトーム(株)		12,999,360	0	12,999,360		6.10.1 ～ 11.9.30			施設警備業務	駿河総合高校
2	自家用電気工作物保安管理業務	静岡ビル保善(株)		7,700,000	0	7,700,000		8.4.1 ～ 11.3.31			自家用電気工作物保安業務	静岡西高校
3	消防用設備等保守点検業務	旭産業(株)		4,138,200	0	4,138,200		8.4.1 ～ 9.3.31			消防用設備点検業務	中央特別支援学校
4	可燃物収集運搬処分業務	(株)静岡清掃企業		運搬20,000円／回 処分15.0円/kg	0	運搬20,000円／回 処分15.0円/kg		8.4.6 ～ 9.3.31			可燃物収集運搬処分業務	静岡農業高校
5	ガスヒートポンプ点検業務	㈱ユアーズ静岡		3,350,600	0	3,350,600		8.5.15 ～ 9.3.31			ガスヒートポンプ点検業務	静岡高校
6	防鼠防虫業務	(株)総合美装ワタナベ		990,000	0	990,000		8.4.8 ～ 9.3.31			厨房等防鼠防虫業務	清水特別支援学校
	計	6件										

負 担 金 支 出 調

（令和７年度）

整理番号	負 担 金 名	交 付 先	負担根拠	事業内容	負担金額	支 出 年月日
1	特別管理産業廃棄物管理責任者に関する講習会受講料	公益財団法人日本産業廃棄物処理振興センター	請求書による	特別管理産業廃棄物管理	13,200	7.5.21
2	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	規約による	聴覚障害教育の振興	18,000	7.7.11
3	全国聾学校長会研究協議会（長崎大会）参加費	全国聾学校長会	開催要項による	聴覚障害教育の情報交換	1,500	7.7.30
4	全日本聾教育研究大会（長崎大会）参加費	第59回全日本聾教育研究大会（長崎大会）実行委員会	開催要項による	聴覚障害教育の情報交換	2,000	7.8.27
5	関東地区聾学校教頭会会費	関東地区聾学校教頭会	会則による	聴覚障害教育の振興	2,000	7.9.19
6	全国聾学校教頭会会費	全国聾学校教頭会	会則による	聴覚障害教育の振興	3,000	7.9.30
7	関東地区聾学校長会会費	関東地区聾学校長会	規約による	聴覚障害教育の振興	5,000	7.11.13
計		7件			44,700	

負 担 金 支 出 調

（令和８年度）
（令和８年７月31日現在）

整理番号	負 担 金 名	交 付 先	負担根拠	事業内容	負担金額	支 出 年月日
1	全国聾学校長会会費	全国聾学校長会	規約による	聴覚障害教育の振興	18,000	8.7.15
計		1件			18,000	

公有財産調

（令和７年度）

区　　分	令和７年３月31日 現　在		増		減		令和８年３月31日 現　在		摘要
	数量又は面積	台　帳 価　格	数量又は面積	台　帳 価　格	数量又は面積	台　帳 価　格	数量又は面積	台　帳 価　格	
行政財産		千円 1,479,905		千円		千円 10,248		千円 1,469,657	
土地	㎡ 11,260.75	1,373,811					㎡ 11,260.75	1,373,811	
立木竹	本 27	236			1	4	本 26	232	
建物	㎡ 2,292.12 3,699.48	30,509				3,393	㎡ 2,292.12 3,699.48	27,116	
工作物	個 89	75,349	1			6,851	個 90	68,498	
公有財産に準ずるもの		200						200	
電話加入権	件 5	200					件 5	200	

令和８年度中増減なし

借 地 借 家 等 調

（令和８年７月 31 日現在）

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	借料		契約期間	所有者又は契約者氏名	用途
				台帳	現況		単価	年額			
1	土地	敷地	静岡市駿河区曲金６－１－５	学校敷地	学校敷地	107.63 ㎡	円 0	円 0	7.4.1 ～ 10.3.31	静岡県立するが視覚総合特別支援学校長	寄宿舎敷地
2	土地	道路敷地	静岡市駿河区中村町 251			20.00m	0	0	7.4.1 ～ 12.3.31	静岡市長	送電線設置
土地計						107.63 ㎡ 20.00m		0			

事務機器等の債務負担行為又は長期継続契約に係る調

（令和８年度）
（令和８年７月31日現在）

区分	事業名又は契約名	内　容	契約額	（契約額の年度別内訳）						
				５年度	６年度	７年度	８年度	９年度	10年度	11年度
長期継続契約	給食業務委託契約	給食調理・配膳業務 （契約日） 5.8.7	円 35,215,950	円 7,822,496	円 11,737,500	円 11,741,802	円 3,914,152	円	円	円
	静岡県立静岡聴覚特別支援学校外４校電子複写機賃貸借契約	電子複写機賃貸借 （契約日） 7.4.1	7,319,400			1,417,416	1,475,496	1,475,496	1,475,496	1,475,496
	カラーＡ３複合機賃貸借契約	カラー複合機賃貸借 （契約日） 7.4.1	415,800			83,160	83,160	83,160	83,160	83,160

行政財産貸付・使用許可調

（令和８年７月31日現在）

整理番号	区分	種別	所在地	地目		数量又は面積	貸付料又は使用料		貸付又は使用許可期間	貸付又は使用許可を受けた者の氏名	貸付・使用許可目的
				台帳	現況		単価	年額			
							円	円			
1	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町251・243	学校敷地	学校敷地	本柱3本	1,500	4,500	7. 4. 1 ～ 12. 3.31	NTT西日本(株)静岡支店長	電柱設置
2	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町251・243	学校敷地	学校敷地	本柱3本 支線3条	1,500	9,000	7. 4. 1 ～ 12. 3.31	中部電力パワーグリッド(株)静岡支社配電建設グループ長	電柱設置
3	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町251	学校敷地	学校敷地	26.77㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3.31	静岡市長	防災倉庫設置
4	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町251	学校敷地	学校敷地	6.01㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3.31	静岡市長	静岡市道路敷地
5	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町251・243	学校敷地	学校敷地	鋼管柱3本	1,500	4,500	7. 4. 1 ～ 12. 3.31	(株)トコちゃんねる静岡代表取締役社長	電柱設置
6	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町251	学校敷地	学校敷地	0.81㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3.31	静岡聾学校ＰＴＡ会長	胸像設置
7	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町251	学校敷地	学校敷地	0.34㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3.31	静岡市長	カーブミラー設置
8	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町243	学校敷地	学校敷地	122.63㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3.31	静岡聾学校ＰＴＡ会長	花壇設置
9	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町251	学校敷地	学校敷地	3.4㎡		免除	7. 4. 1 ～ 12. 3.31	静岡市長	防災同報無線子局設置
10	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町251	学校敷地	学校敷地	1.69㎡		免除	8. 4. 1 ～ 11. 3.31	静岡市長	消防施設設置
11	土地	学校敷地	静岡市駿河区中村町243	学校敷地	学校敷地	3.30㎡		免除	6. 4. 1 ～ 9. 3.31	静岡県くらし・環境部水利用課長	地下水観測施設設置
合計								18,000			

主　要　備　品　調

（令和８年７月31日現在）

整理番号	区分 大・中	区分 小	品名・規格	利用状況	購入年月	購入金額
1	1-13	その他の厨房器具	真空冷却機 CMJ-20QE	給食調理　毎　日 年間200日	平成25年3月	円 3,339,000
2	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	補聴器特性検査設備 リオンＬＨ－11	補聴器点検　週２日 年間100日	平成９年３月	2,678,000
3	4- 2	機能検査機器	補聴器特性測定器 ＦＯＮＩＸ7000	補聴器点検　週２日 年間100日	平成19年３月	2,488,500
4	9 -1	美術工芸品	絵画　憧れ　50号	来客用　毎　日 年間200日	平成29年11月	2,160,000
5	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	ワイヤレス集団補聴器 リオンＧＨ－05	体育館訓練　月１日 年間 12日	平成４年３月	2,101,200
6	9 -1	美術工芸品	絵画樹霊そのⅡ100号	来客用　毎　日 年間200日	平成30年1月	1,800,000
7	2- 1	パーソナルコンピュータ（一式）	パーソナルコンピュータ７台	授業用　年数回 年間　3日	平成29年1月	1,674,000
8	4- 2	機能検査機器	言語聴力検査装置 日本補聴器センター ME-70	聴力検査　週３日 年間120日	昭和59年11月	1,630,000
9	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター インサートイヤホン IP30付　AD629E	聴力検査　毎　日 年間200日	令和５年3月	1,522,620
10	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター ＭＥ－170	聴力検査　週３日 年間120日	平成19年３月	1,512,000
11	4- 2	機能検査機器	オージオメーター リオンＲＳ－30	聴力検査　週３日 年間120日	昭和62年3月	1,040,000
12	1-13	食品食器洗浄機	ドアタイプ洗浄機 60Hz　TDWG-6DR	給食調理　毎　日 年間200日	令和８年１月	1,030,700
13	2- 3	音響再生機器	フラットループアンプ リオンＧＨ－41Ｄ	児童生徒指導　年数回 年間 10日	平成17年8月	945,062
14	5-99	試験実験機器	補聴器特性測定器 コルチトーン製 CORTIMA 8000	聴力検査　週１日 年間 40日	令和7年12月	924,000
15	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター ＡＡ76	聴力検査　週３日 年間120日	平成15年3月	892,500
16	2- 1	その他の情報処理機器	校内ＬＡＮサーバー 校内ＬＡＮ周辺機器一式	校内LAN用　毎　日 年間240日	平成13年3月	861,300
17	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター (インサートイヤホン付) ＡＤ229e	聴力検査　週３日 年間120日	平成22年3月	834,750
18	4- 1	耳鼻咽喉科用機器	オージオメーター リオンＡＡ－66Ｄ	補聴器点検　週２日 年間100日	平成8年3月	813,700
19	2- 1	その他の情報処理機器	校内ＬＡＮサーバー ﾈｯﾄﾜｰｸｻｰﾊﾞｰ等機器一式 ＨＰ　DL320	校内LAN用　毎　日 年間240日	平成21年7月	793,800
20	5-99	試験実験機器	ドラフトチェンバー ヤガミ　YD-1	理科実験用　年数回 年間　２日	昭和53年12月	730,000